

平成27年度学校自己評価システムシート (国際学院中学校高等学校)

目指す学校像	建学の精神「誠実・研鑽・慈愛・信頼・和睦」を身に付けた人材の育成
--------	----------------------------------

重点目標	1 豊かな人格形成 2 確かな進学指導 3 選ばれる学校づくり 4 国際理解教育(ユネスコスクールとして)の推進
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者評価委員	6名
	第三者評価委員	5名
	事務局(教職員)	14名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					年度評価(2月15日現在)		
年度目標					年度評価		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	○建学の精神「誠実」「研鑽」「慈愛」「信頼」「和睦」のもとより具現化するために、教育目標・教育方針「礼を尽くす」「場を清める」「時を守る」を実行している。また、生活の重点目標として「身だしなみ」「話を聞く」「けじめ」等、人間教育に重点をおいた豊かな人間性を備えた【人づくり教育】を実践している。	○生徒指導の充実 ○部活動の充実 ○学校行事の充実 ○人権教育の充実 ○地域、関係機関との連携	①挨拶、清掃活動、頭髪・服装等の基本的な生活習慣に係わる指導の徹底。 ②「生徒指導から進路指導」「授業規律の確立」をテーマに、授業姿勢に対する指導。 ③部活動、学校行事への積極的参加の奨励。 ④問題行動の未然防止、天災に備え、地域・各関係機関との連携の強化。	①挨拶、頭髪・服装等ができていない。 ②チャイム着席ができていないか、居眠りや忘れ物などが無い。 ③部活動の参加状況および実績状況。また、生徒主体での学校行事ができていない。 ④日常的に学校開放、防火防災訓練、問題行動の未然防止ができていない。	○落ち着いた学校生活を送る生徒が多く、授業や部活動に意欲的に取り組む生徒が多い。 ○人権教育等の講演実施、多岐にわたる問題・天災に備え、地域・関係機関との連携を整え万全の体制を期している。	B	○授業への取り組む姿勢が低い生徒は改善傾向にあるものの欠席や遅刻が多くなってしまいう傾向にある。このような二極化を改善することが次年度に向けた課題である。
2	○昨年度は担任を中心とした学年団の熱心な指導が実を結び、推薦入試で大きな成果を上げることができた。しかし、進学実績を向上させていくためには一般入試で受験する生徒を増やしていくことが必要である。	○国公立・難関私大への合格者延べ20名以上 ○有名大学への合格者延べ30名以上	①進路活動の見直しを持たせる。 ②第3学年と連携する。 ③総合進学コースIのセンター試験全員受験させる。 ④校内予備校の講師と情報交換し、担任・教科指導に活かす。	①進路計画について配布できた。 ②進路指導部と情報を共有し、指導に当たることができた。 ③受験に向けて、全体で取り組み姿勢が見られた。 ④学年と進路指導部で情報の共有をすることができた。	○国公立・難関私大合格者が現在1名、有名私立大学20名である。一般入試の結果次第であるが、国公立・難関大の目標達成は難しいが、有名私立大学の合格者は目標を上回る見込みである。	C	○進路実績を向上させるためには、一般入試を受験する生徒をいかに増やしていくかが課題である。そのためには、入学時より継続的な進路指導や全教職員共通の目標として情報共有しながら指導に当たっていくことが必要である。また、保護者の意識を高めるために、資料配布や説明会を計画的に実施していくこと
3	○各種生徒募集活動により本校の教育について積極的にPRした結果、推薦入試を終えた段階で過去最高の受験者数となった。今後も定員を充足しつつ、上位コースの入学者を増やしていく。	○各コースの定員充足 ○質の高い広報媒体の制作 ○中学校訪問、塾訪問校数 ○学校説明会、個別相談参加者数 ○外部会場相談会等の参加者数	①学校案内、ポスター、チラシ等の制作。 ②HPの更新。 ③中学校訪問、塾訪問。 ④学校説明会、個別相談会実施。 ⑤外部会場相談会等への参加。	①学校案内等について受験生、保護者、中学校、塾の評価は良好であった。 ②HPの更新頻度は適切であった。 ③中学校や塾に対して適切な情報提供ができた。 ④学校説明会、個別相談会は充実していた。 ⑤外部会場相談会の参加者が増えた。	○学校案内等は概ねよい評価を得た。 ○HPの更新を適宜行うことができた。 ○訪問の予定校数を訪問できなかった。 ○生徒の司会や発表を取り入れた学校説明会を実施することができた。 ○外部会場相談会で昨年を上回る参加者を得た。	A	○定員を充足し、上位コースの定員を満たしたか。 ○教育内容を適切に伝えるより良い学校案内等の作成。 ○HPの頻度の高い更新とアクセス分析の実施。 ○他業務とのバランスを図り確実に訪問する。 ○充実した説明会等の実施。 ○外部会場に多くの参加者を募る。
4	○ユネスコスクールとしてESD(持続発展教育)を推進しており、特に国際理解教育と環境教育を中心に取り組んでいる。英語教育についても、GTECや英検での成績向上に向けて取り組んでいる。一方、ESDの取り組みが学校行事化することで、ESD自体への理解が不十分なまま取り組む場面が見られる点が課題である。	○英語教育の充実 ○ESD(国際理解教育・環境教育)の推進	①英語を学ぶ機会充実(英検、GTEC、全校リスニング、英単語ランブリなど)・KOKUSAI Methodの取り組み。 ②国際理解を深める機会の充実(世界異文化学習会・異国料理学習会・留学生受け入れ、海外生徒との交流)・環境学習の充実(古着回収運動)。 ③ESDに関する講演や説明会の実施。	①各種検定試験の受検者、合格者の増加につながった。 ②学習会や交流に向け目的やESDへの理解を促し、意欲を高めることができた。 ③ユネスコスクールの理念やESDについて理解を深めることができた。	○昨年度より英検準2級合格者4名増、3級合格者36名増(中高計;第1回と第2回の合計)、GTEC500点以上の生徒数3名増、全体平均5.7点上昇(7月回比較) ○留学生2名、台湾・香港派遣、台湾来校、マレーシア王立学校、中国高校生友好交流大使来校(外務省事業)。 ○世界遺産検定協会による講演、新任教職員へのESDに関する研修、産社でのESD講演実施。	A	○KOKUSAI Methodによる効果が認められるものの、教員負担が増加している一面もあるため、改善していく。 ○海外の生徒との交流などは参加生徒に限られるため、より多くの生徒が関わることができるようになる。 ○継続的に新入生や新任教職員への研修を行っていく。

学校評価	
実施日	平成28年2月23日(学校関係者評価) 平成28年2月26日(第三者評価)
評価委員からの意見・要望・評価等	
チャイム授業の取り組みを継続して行っていることはよいことである。率先して挨拶を行うことなどは非常に大切なことである。「誉カード」などの取り組みはとてもよいので、是非今後も継続して行ってほしい。授業力向上の部分での教員への公開授業はよい取り組みである。	
生徒自身が、ゴールを見据えて学習を進めることが大切であり、そのためにも学力を可視化する必要がある。新テストに対応したカリキュラム開発などの取り組みは高く評価できる。進路実績については、今後も継続的な取り組みが必要であり、栄養系・幼児保育系などの進学希望者については高大連携も含めた指導をお願いしたい。	
志願者数を達成するために学校説明会の参加者数の目標値や、中間の目標値を明確に設定しており、良い取り組みである。1700名を超える志願者は、募集活動の成果として捉えることができる。	
KOKUSAI Methodや英語科を中心とした取り組み(英単GPや全校リスニング)はとてもよいものであり、今後も継続して行ってほしい。留学生との交流などがさかんであり、とてもよいことである。	